

MIDORI NO TOHOKU

みどりの東北

No. 76

発行日 ■ 平成22年 7 月 発行 ■ 東北森林管理局
秋田市中通五丁目 9-16 TEL. 018(836)2192

ホームページ ● <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



子供たちが地域の森林について学習
(詳細は7ページで紹介)

トピック

特集

「労働災害の防止について」
～蜂刺され災害防止対策～

職員厚生課

美しい森林づくり (地域発案システムの取組)

「地域、NPO法人との連携による「国民の森林」の保全・活用」
秋田森林管理署湯沢支署

我が署の隠れた名所

「安の滝」

米代東部森林管理署上小阿仁支署



東北森林管理局では、日本の森林を育てる
ために間伐材を積極的に使用しています。



特集 コーナー

労働災害の防止について 蜂刺され災害防止対策

職員厚生課

日本では、野外で作業する林業従事者はもとより、一般の人々も含めて全国で毎年二十人強の方が蜂刺されて亡くなっています。

東北森林管理局においては、五年間で六十九件の蜂疾病災害が発生しており、多い年には一年間で三十六件発生した年もありましたが、幸い重大な災害は発生していません。定期的には八月をピークに七月から九月までの期間が多く、全体の約八十四パーセントを占めています。

当局では、蜂刺されによる労働災害を防止するために、「蜂刺され災害防止対策」の通知等に基づき、様々な取組を行っており、職員への自動注射器の交付もそのうちの一つです。

自動注射器は、アナフィラキシー（急性の全身性アレルギー）の症状を緩和するため、交感神経を興奮させる作用があるアドレナリン（エピネフリン）が充填されている一回投



自動注射器（エピペン）

与型の注射針一体型注射器です。注射針は内臓されていて外からは見え、安全キャップを外さない限り針は飛び出さない構造で、自己注射する場合は、座った状態または横になった状態で太ももの前外側に垂直

になるように、黒い先端を十秒程度強く押しつけ、筋肉投与となります。

自動注射器の交付対象者は、蜂の生息する現場の業務に従事する職員のうち、重篤症状経験者、強いショック症状が予想される者及びこれ以外の者であっても本人がショック症状について危惧する等により自動注射器の交付を希望する職員としており、産業医でもある処方医が、アナフィラキシーの既往歴、生活環境等について十分な問診を行い、自動注射器を処方する必要があると判断した職員に、使用に関する注意事項等を説明・指導したうえで交付しています。

特に、交付を受けた職員が蜂に刺された場合に、症状の変化に応じ速やかに使用できる体制を整え、「中程度以上（めまい、動悸、嘔吐等の症状）」のショック症状が現れたと判断した場合に自己注射し、「軽いショック症状（発汗、吐き気等の症状）」の場合は自己注射しないこと、自動注射器はアナフィラキシー発現時の補助治療剤であることから、自動注射器使用後は、必ず医師の治療を受けること、アドレナリンは光で分解しやすいため、携帯用ケースに収められた状態で、常温が確保できる場所で保管することなどを徹底しています。

また、使用した場合は、刺されたからの症状変化や注射後の経過について必ず報告を受けることとしています。

この他にも、防蜂網・防蜂手袋・救急薬品（蜂毒吸引器、抗ヒスタミン剤軟こう・スプレー式殺虫剤等）を備付けるとともに、蜂の危険期を向かえることに備え、巣作りを開始する前に女王蜂を捕獲する目的で、五月頃から、各現場において誘因捕殺器（ペットボトルを使用し、酒・砂糖・酢を混ぜ合わせたもの）を設置するなど、蜂刺され災害防止対策に、職員一丸となって取り組んでいます。

「鹿角八幡平ふるさと森林づくり」植樹祭参加者募集

開催日時：平成22年9月25日(土)
開催場所：秋田県鹿角市八幡平 熊沢国有林
(八幡平大沼そば)

開催内容や応募方法については、
◆東北森林管理局ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/index.html>
をご覧ください
◆森林整備課企画係 (TEL 018-836-2175)
までお問い合わせください。

美しい もり 森林づくり

(地域発案システムの取組)

地域、NPO法人との連携による 「国民の森林」の保全・活用

秋田森林管理署湯沢支署

湯沢支署は秋田県を縦断する雄物川上流域の国有林を管轄しています。管内の国有林は、「奥羽山脈緑の回廊」や保護林が設定されている豊かな自然環境の水源地帯であると共に、高山地域は栗駒国定公園にも指定されており、多くの登山者、観光客が訪れます。

このため当支署では、地域住民やNPO法人等と様々な連携を行いながら、貴重な自然環境の保全のPRを行うとともに、国有林を「国民の森林」

として活用した各種取組を行っています。

具体的には、①高山植物盗採防止対策②遭難防止対策③森林ふれあい推進事業④地域包括保健・医療・福祉実習⑤各種団体との連携による国有林をフィールドとしたイベントの開催などですが、今回はこのうちの二つの取組を紹介します。

○高山植物盗採防止

栗駒国定公園に指定され、豊かな自然や温泉があり、車を降りると足下から高山植物も楽しめることから入り込み者が多い仁郷山国有林内において、高山植物の保護や盗採防止の啓蒙活動を行っています。

毎年、当支署職員、横手警察署員、植物に詳しいNPO法人の協力を得て、国道三四二号栗駒山荘丁字路付近において、訪れた観光客などに、当支署が作成した高山植物保護のチラシを



入り込み者へのチラシの配布

配布するとともに、高山植物の採取・持ち帰りがなければの確認調査を行っています。

○地域包括保健・医療・福祉実習

秋田大学医学部が湯沢市の雄勝中央病院で行っている実習で、その実習のカリキュラムの一つである産業医実習が国有林をフィールドとして行われています。これは、将来、産業界に就いた場合の参考となるよう、林業の作業現場を実際に見て、働いている人の生の声を聞き、「林業で発生しやすいケガ」や「安全のため取り組んでいること」などを学ぶために実施しています。

今年度は、六月三十日(水)、医学部生七名を対象に実施され、当署の役内山国有林の生産請負箇所(チェンソー、高性能林業機械(ハーベスタ)等を使用した伐採から搬出まで



作業現場の視察

の一連の作業を視察し、それぞれの作業の安全対策について学習しました。学生からは、「指差呼称」「クサビの使用」などの安全対策について質問がありました。また、「ハーベスタ」の作業の早さには感嘆の声が上がっていました。



実習に参加した学生の皆さん

このほか、午後からの栗駒国定公園内での植物観察では、葉草について講師から説明をうけるなど、医学部生として普段、経験することのない時間を過ごしていました。

講師は、職員のほかに当支署の産業医である雄勝中央病院院長中村先生、フォレストボランティアの柴田喜久子氏、北日本索道株式会社兼子専務にご協力を頂きました。

当支署では、引き続き、自然環境を守っていくことの必要性や国有林、林業について理解を深めて頂くよう、地域の方々と連携してこれらの取組を積極的に行うこととしています。

試験地

森林総合研究所 東北支所

支所長 山本 幸一

森林を知るためには試験地が必要です。ここでは、自分が携わった木材の試験地や東北支所に来てから見た試験地を紹介し、今後の重要性を考えます。

● 木材の耐用年数

「木材はどの位長持ちするのか？」を知りたい状況は、土木工事、各種の建設等で色々想定されます。その疑問に答えるため、森林総合研究所では昭和28年に野外杭試験地を設置し（写真1）、素材杭や薬剤処理した木杭（3×3×60cm）を土中に埋め込み、腐れやシロアリ被害を経年的に調べ耐用年数に関するデータを公表しています。1960年代から国産材と輸入材の試験を進め、心材の耐久性の区分（辺材



写真1 木材の耐久性を調べる野外杭試験場

はどの樹種も耐久性は同程度に低く、区分する意味はあまりありません）が行われました（図1）。

区 分	主な樹種（下線は輸入材）
最大（9年以上）	カヤ、コウヤマキ、 <u>チーク</u>
大（7.0～8.5年）	ヒノキ、ヒバ、クリ、ケヤキ、ニセアカシア、 <u>ベイスギ</u>
中（5.0～6.5年）	スギ、カラマツ、アカマツ、ミズナラ、 <u>ベイマツ</u> 、 <u>クルイン</u>
小（3.0～4.5年）	モミ、イチョウ、マカンバ、ブナ、コナラ、 <u>ベイツガ</u> 、 <u>スプルース</u>
最小（2.5年以下）	トドマツ、ドロノキ、シラカンバ、トチノキ、 <u>キリ</u> 、 <u>ラジアータマツ</u>

図1 心材の耐久性の区分

● 森林植生の回復

「どうしたら荒廃地を森林に戻せるのか？」に答えることは、地球温暖化の中で森林の役割が大きく認識される中で、重要です。岩手北部森林管理署では、八幡平市の牧草跡地を森林に戻すため、重機による「掻き起こし表土削除」、「表土削除と播種」、及び「牧草地への山取り苗の植栽」、「無処理」の区分を設けて（写真2）、森林への回復過程を調べています。処理により異なった経過を辿っており、何

れかの方法或いは組み合わせにより、森林への回復が確実に加速されるであろうことが実感できます。



写真2 森林回復のための表土剥ぎ取り試験区

● 成長の早い森林

「成長の良い森林にしたい」という要望は、高まると予想できます。理由の一つは、国内の二酸化炭素吸収に大きな役割を果たす森林の力を増強できるからです。成長が良くとも木材の質が悪くては困るのですが、その心配が無さそうなデータも得られており、心強いと思います。山形森林管理署最上支署の鮭川村にあるスギ検定林では、隣接する一般造林木に比較して、平均樹高、胸高直径共に3割程度大きく（写真3）、生存率も高く、生産力が高い次世代の優良系統が今まさに選ばれようとしていました。



写真3 生長量の高いスギを選抜する検定林
右側が検定林、左側が一般林

● 試験地の重要性

明治時代に開始された試験地からは、既に100年を超えるデータが集積されているモノもあり、「もう充分ではないか」の意見もあると思います。森林に期待すること（生産性、国土保全、生物多様性など）は、地域や時代によって変わり、それへの対応が必要ですし、気候の激変が森林に及ぼす影響を先取りして対応することも必要ですから、試験地から得られる客観的データが、今後も重要であり続けると思います。

各地からの便り



職員による「股バンド」等の説明

五月二十五日（火）青森県五所川原市の県立五所川原農林高校大東農園において、津軽地方の十四の事業体及び森林管理署等から五十九名が参加し、林業労働災害防止協会（林災防）青森県支部及び北五分会主催（後援：津軽森林管理署及び当支署）による「刈払機用の股バンド」着用現地研修会が行われました。「股バンド」とは、太

「刈払機用の股バンド」着用現地研修会へ講師を派遣

津軽森林管理署金木支署

もにも巻いたバンドを刈払機の肩掛けバンドとつなぎ、転倒時やキックバック時に刈払機のずれ上がりを防ぐ災害防止バンドの通称です。

当日は、林災防青森支部の最上専務理事及び当支署長の挨拶の後、「股バンド」の講師として派遣した当支署職員二名が、「林業労働災害は依然として多く、その中でも刈払機による災害はチェーンソーに次いで発生件数が多い状況にあります。刈払機の災害は「キックバック」による事例が多く、その防止対策の一つとして「股バンド」の着用があります」と話をし、続けて「股バンド」着用による災害防止効果、着用事例の説明及び実演等を行いました。

その後、野外で林業事業体の社員の方にも「股バンド」を着用した刈払機の作業を体験してもらい、体験者からは「着用には違和感があったが、刈払機作業における安心感もあった」、「平坦な場所では良いと思うが、斜面などの作業ではどうか」や「簡易的な方法だが安全に対する効果が高いのでは」等の意

見が出されました。

最後に、主催者から「股バンド」の作り方の説明及び意見交換等を行い研修会を終了しました。

また、六月十六日（水）と七月六日（火）にも林災防青森支部より講師の派遣依頼があり、同様に実演等を行いました。

当支署では、刈払機の災害防止対策の取組を活かしながら、今後も林材業における労働災害発生防止活動に協力していくこととしています。

三八上北森林管理署

「森林の恵の環境祭
—2010—」を開催
～守ろう地球、
創ろう共生社会～

晴天に恵まれた六月五日（土）、当署の構内等を会場に、上北森林組合、上十三地区森林組合、おいらせ知（とも）の会、青い森カービングクラブ、上北地域県民局農林水産部、十和田市ほか多くの関係機関のご協力を得て、三回目となる「環境祭」を

開催しました。

当日は、木工品等の販売、ペレットストーブや林業機械、森林の写真等の展示、スタンブラー、イワナのつかみ取り、シイタケのこま打ち、丸太切りや薪割りの体験、手作り鍋の無料配布、さらには、「遊々の森」の協定を締結している三本木高校附属中学校の生徒が樹木の表面に中国の古代文字を墨で書いた樹書展など多種多様なコーナーが設けられました。



三本木高校附属中学校樹書展

なかでも、今回初めて行ったイワナのつかみ取りでは、来場

した子どもたちが初めて目にするイワナに興味を持ち、つかみ取りに挑戦していましたが、な



うまく捕まえられるかな

かなかつかむことが出来ず、四苦八苦しながらもイワナに直に触れて楽しんでいました。

最後にチエーンソーアートによる製作品のオークションが行われ、その売上金は緑の募金に寄付されました。

この環境祭で、森林の恵みにふれ、楽しんでいただいたことで、二酸化炭素の吸収源として地球温暖化防止に寄与している森林を身近に感じていただけたと思います。

宮城北部森林管理署

金華山での「緑の再生植樹」

宮城県石巻市の太平洋上に浮かぶ金華山島において、NPO法人森林との共生を考える会、宮城県、石巻市、当署の共催による「ボランティア植樹」が四月二十四日（土）開催されました。また、四月十八日（日）と五月十五日（土）の両日には女川町の民間船会社である潮プランニング主催による「金華山グリーンプロジェクト」と名付けた植樹活動が行われました。



第6回ボランティア植樹

両活動とも、松くい虫被害やシカの食害から緑の美しい金華山を取り戻そうと一般参加者を募り実施されたもので、共に金華山港から北へ約一・二キロ離れている芝生状態に荒廃した国有林内に植樹を行いました。

「ボランティア植樹」は、今年で第六回を数え、当日は空模様心配されましたが、前日の悪天候から回復し、少し肌寒い天候ではあったものの、一般公募者を含め百八十五名が参加して、シカの食害を防ぐために設置した防鹿柵の中にクロマツの苗木二千本を植栽しました。参加者の中には海外からの漁業研修生もいて、国際色豊かな植樹活動となりました。

また、当植樹活動は今回で植栽本数が一万本を達成したことから記念としてサクラの木を植栽しました。

「金華山グリーンプロジェクト」は、両日ともに暖かい陽気に恵まれた天候となり、総勢七十八名の参加者により、防鹿柵の中にクロマツの苗木千七百五十本を植栽しました。昼食時には、初日にホタテのみそ汁、二

日目にはカニのみそ汁が振る舞われ、美味しい海の幸にお代わりを頂戴する参加者が大勢みられました。



金華山グリーンプロジェクト参加の親子

当署では、引き続きボランティア団体等との連携により、金華山の白砂青松の森林再生に取り組むこととしています。

仙台森林管理署

「林野火災防ぎょ訓練」へ参加

五月三十日（日）、宮城県と蔵王町主催による「平成二十二



消火訓練の様子

年度林野火災防ぎょ訓練」が倉石嶽国有林内のみやぎ蔵王えぼしスキー場において開催されました。

この訓練は、宮城県と持ち回りによる市町村の主催の下、林野火災の特殊性及び資源保護の重要性を考慮し、防災関係機関が共同で訓練を実施することにより、関係機関相互の協力体制の強化を図るとともに、防ぎよ技術の向上と防災思想の普及を図ることを目的として昭和四十

三年より開催されています。通算して四十回目となる今回の訓練には、三十機関、約七百六十名が参加し、昨年の宮城県角田市での大規模な林野火災を教訓として、初動対応と各機関が協力・連携することの重要性を再認識するために訓練の内容を明確にすることとし、「第一部林野火災初期対応訓練」、「第二部避難誘導・救出・救護訓練」、「第三部航空隊・地上隊連携による火災防ぎょ訓練」の三部構成に分け、より実践的な訓練を行いました。

当署から参加した六名の職員は、第一部での情報収集訓練や第三部での防火線設定訓練等に加わり、各機関との連携のとり方を確認しながら緊張した面持ちで訓練を行っていました。

当署では、これまでも関係機関、ボランティア団体等の協力をいただきながら山火事防止のための啓蒙活動に取り組んできましたが、万が一火災が発生した場合でも大規模な延焼を防ぐため、各機関との協力・連携をより強固なものにしていきたいと考えています。



「きみまち杉」の前での学習

平成二十二年六月十六日(水)、上小阿仁村立上小阿仁小学校三年生の児童十名が、「総合的な学習の時間」に当支署管内の「コブ杉」と米代西部署管内の「きみまち杉」を訪れ、地域の森林のすばらしさや基幹産業であった林業について学習しました。

上小阿仁小三年生が「地域の森林」について学習

米代東部森林管理署上小阿仁支署

などの説明を受けたあと、上大内沢自然観察教育林の中にある「コブ杉」を観察しました。「コブ杉」を見るのは、ほとんどの子供にとって初めてのことで、その奇妙な形を不思議そうに眺めていました。

その後、一同はバスで仁鮎水沢スギ植物群落保護林へ移動しました。樹高五十mを超える天然秋田スギが林立する中を十五分ほど歩き、目的地に到着すると、日本一高い天然スギである「きみまち杉」の壮大で威厳のある姿に、皆一様に驚いていました。最後に、子供達からの質問を受け付けたところ、「仕事をしていく中で一番苦労することは何ですか」、「この木は切ったりするのですか」などの素朴な質問に、案内した米代西部署の職員が回答に困るような場面もありました。

当支署では、次代を担う子供達に森林、林業についての理解を深めてもらえるよう、引き続き、関係機関等と連携して森林と地域の生活や文化との関わりについての学習等に協力していくこととしています。



指導普及課

「森が育む
おいしい水を大切に！」
～アサヒビール㈱社員
森林整備活動を実施～

東北森林管理局とアサヒビール株式会社秋田支社、仁別森林博物館ボランティア案内人は、平成二十年八月に仁別自然休養林（仁別国民の森）内での様々な活動に連携して取り組むこととして三者協定を締結しています。六月十二日（土）には、この三者協定に基づく森林整備活動の一環として、歩道の刈払作業を行いました。

当日は晴天に恵まれ、アサヒビール秋田支社の社員、案内会の会員、局職員ら二十四名が参加し、局職員より下刈鎌の取扱方法や、十分に間隔をあけて作業するなど安全に作業を行うための留意事項について説明を受け、作業を開始しました。

仁別森林博物館から展望台を通り駐車場までの「みはらしの径」約七百五十mの歩行の妨げになる雑草や枝を刈り払い、二時間程で作業を終えた参加者からは、「遊歩道が歩きやすくなっ

て充実感があつた」、「鎌の切れ味がよく、草がよく刈れて楽しい」などの声が聞かれました。昼食後は、案内会の方々が、参加者を周辺の天然秋田杉の林や「めもと杉」へ案内し、約一時間ほど森林浴を楽しみました。「森の巨人たち百選」に選ばれている「めもと杉」を前にしての屋久島の縄文杉についての話や、遊歩道沿いに生息する植物などの説明に参加者は熱心に耳を傾けていました。

三者協定に基づく活動は秋にも計画されており、今後とも仁別自然休養林における森林整備保全活動を盛り上げていくことを確認し、解散となりました。



作業を終えて記念撮影

ミニコラム

へえ～
そうなんだ

ヤナギラン（アカバナ科）

岩手北部森林管理署技術専門官

松尾 亨

初夏の高原を鮮やかなピンクに染めるヤナギランは、東北や北海道など少し寒い地方に分布します。名前の由来からすると、当然ラン科の植物と思ひ込みやすいのですが、待宵草などの仲間でアカバナ科です。4枚の花弁を持つ花を美しい蘭に喩え、柳のように細い葉を持つことからの名前です。

英名で「Fireweed」（火の雑草）と言われるように、山火事の跡地や、伐採跡地に群落を作るパイオニア的な植物で

す。私がTVで見たアラスカの映像では、10年程前の山火事跡地がその数年後ヤナギランにお

おわれ、数百Haのタイガに「ピンクの絨毯」を敷きつめたようでした。

しかし、その生態上、日当たりの良い草原や山火事跡地の植物遷移が進み、次第に森林化してしまうと生育し続けることが難しくなります。ヤナギランは新天地を求め、風とともに種が旅をしていく「草生」のようです。



ヤナギラン

ヤナギラン群落

市 民が親しめる 国有林を目指して

三陸中部森林管理署
釜石森林事務所

福 田 守



私の勤務する釜石森林事務所は、岩手県の南東部、陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置する釜石市にあります。釜石市には、甲子川流域の国有林を担当する釜石森林事務所のほかに橋野川流域の国有林を担当する栗橋森林事務所がありますが、そちらも併任しているため、釜石市内の全ての国有林約9,900haを管轄しています。

我が森林事務所部内である、市の南西部には、標高1,351mの五葉山を最高峰とし、片葉山（1,313m）、愛染山（1,228m）などの山々が連なっています。中でも五葉山は釜石市、大船渡市、住田町の2市1町にまたがる準平原地形の山です。藩政時代は、伊達藩直轄の山で、ヒノキなどの林産資源が豊富で、藩にとって重要な山だったことから「御用山」と呼ばれました。それが、後に、この山で多く見られる五葉松になぞらえ、「五葉山」となったそうです。貴重なヒノキアスナロの原生林やシャクナゲの群落があり、ホンシュウジカやニホンザルなども住み、岩手県立自然公園に指定されています。



風力発電タワーと五葉山遠景

また、市の北西部には和山高原があります。標高800メートルの広大な丘陵地帯には、風力発電タワー43基が建設され、その一部は国有林が貸付地として使用されています。

昨年、甲子川上流部に位置する愛染山国有林において、昭和36年から治山えん堤を主とした治山施設を設置し、山腹や溪流の荒廃を復旧させてきたことを市民の皆さんに紹介する、現地見学会を開催しました。私は、市民の皆さんが安全に楽しく見学会に参加して

頂けるよう、現場の安全確保の責任者として、林道・歩道の整備等の事前準備に携わりました。当日は天候にも恵まれ、



治山見学会の参加者

20名の参加者は、水源かん養保安林にかこまれた林道約2kmを散策しながら、木材を使用した治山ダム4基などを見学しました。

また、今年の5月には、釜石地方の国有林では初めてとなる「花粉の少ないスギ」の植樹の集いを、岩手県が管理する日向ダムの湖畔にある大松倉国有林を会場に開催しました。市民に関心の高い花粉対策の普及啓発を図ろうと参加者を公募し、関係機関等からの参加者を含めた45名が少花粉推奨苗木「上閉伊14号」を植樹しました。当日は、ダム湖を背景にした植樹の様子がメディアにも取りあげられるなど、花粉対策の一層のPRとなりました。午後からは、一般参加者12名を近くの国有林内に案内し、樹木の紹介や植生の説明など豊かな森林の様子を見学してもらいました。

このような市民とのイベントを通じ、国有林をPRすることの重要性を認識することができました。今後も、引き続き、国有林、ひいては林業全体のPRのために微力ながら努力していきたいと考えています。



市民による標柱建立

我が署の隠れた名所

雄大壮美な

「安の滝」
やす



米代東部森林管理署上小阿仁支署

安の滝は、秋田県北秋田市阿仁の八キロメートルにわたる中ノ又溪谷の上流、ブナ森の麓から流れる標高約八〇〇メートルの高原にかかる落差九〇メートルの滝です。阿仁の自然美を代表する秀麗な二段構造の滝で上段が落差約六〇メートル、下段が落差三〇メートルあります。上段と下段の間には広い滝壺があり、徒歩で登ることもできます。

また、日本の滝百選で第二位に選ばれています。険しい岸壁に懸かる白いすだれ状の滝の流れが、周辺の新緑や紅葉に映え、訪れる人に感動を与えています。



交通
アクセス

国道105号線から県道308号線を打当方面へ車で約15分。さらに安滝林道を車で30分。駐車場から徒歩約40分で安の滝正面へ。上段の滝壺までは更に15分。

お問い合わせ先

〒018-4401 秋田県北秋田郡上小阿仁村沖田面字野中484-2
電話番号:0186-77-2422 FAX:0186-77-2426